様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 22 年　5 月　1 日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2007～2009

課題番号：19330088

研究課題名（和文）日本的多文化マネジメントシステムの研究

研究課題名（英文）(Research of the Japanese style multicultural management)

研究代表者
林　倬史　　（HAYASHI　TAKABUMI）
立教大学・経営学部・教授
研究者番号：50156444

研究成果の概要（和文）：本研究の成果を総括すると、新たな日本的マネジメントには、「クロス・カルチュラル・マネジメントとトランス・カルチャラル・マネジメントの両面を有する多文化マネジメントシステム」が不可欠であり、とりわけグローバルに競争優位性を有する新たな製品・事業を創造するためには、多様な文化的差異を組織内に取り込みつつ、それらの差異を超えた、トランスカルチャラルなあらたな組織文化を構築していくことが不可欠となる。

研究成果の概要（英文）：Not only traditional cross cultural management theories, but also knowledge creation theories including strategic management, have hardly highlighted the impact of cross-border collaborative R&D activities on knowledge creation processes and the dynamic interconnectedness between these processes and diverse multicultural cognitive approaches from the perspective of the source of global competitiveness. As a result of this study, we have noted that there is increasingly dynamic interconnectedness between knowledge creation and cultural and technological diversities.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2007 年度	2,600,000	780,000	3,380,000
2008 年度	2,400,000	720,000	3,120,000
2009 年度	1,500,000	450,000	1,950,000
年度			
年度			
総　計	6,500,000	195,000	6,695,000

研究分野：社会学
科研費の分科・細目：経営学・経営学
キーワード：ダイバーシティ・マネジメント・知識創造・研究開発のグローバル化・技術的多様性・新製品開発のコンセプト・認知アプローチ・異文化マネジメント

１．研究開始当初の背景

林（代表者）は、「研究開発活動とプロジェクトメンバーの文化的多様性」、桜井は「イスラム経営の文化的特質」、馬越は、「人材

開発とダイバーシティ・マネジメント」を中心に研究を行ってきた。今回の研究は、これら３名のそれぞれの研究上の問題意識を踏まえながら、多文化マネジメントを「ダイバーシティ・マネジメント」の視点からとらえ直し、（１）「文化的多様性と文化的差異」および「認知アプローチの多様性」が新製品開発プロジェクトにおける新たな知識創造にどのような効果をもたらしているのか、（２）ナショナル・カルチャーの「文化的差異」が、「組織コミットメント」に及ぼす影響、および（３）イスラム系企業のビジネス活動における異質性の研究、に焦点を当ててきた。そしてそれらの文化的多様性の視点を集約した新たな「日本的多文化マネジメント・システム」に纏め上げることで意見がまとまり、共同研究が開始されるに至った。

２．研究の目的

本研究の「研究目的」は、経済環境変化がグローバルな規模で進むなかで、日本産業・企業が新たな国際競争優位の源泉を創出するための新たなマネジメント・システムとしての「知識創造型の日本的多文化マネジメントシステム」構築のための理論的基盤を構築していくことにある。

従来型の競争優位性の源泉としての日本的新製品開発モデルのもとでは、東アジア企業の台頭にも起因して、いわゆるものづくり能力の相対的低下により、新製品を開発しても急速にコモディティ化が進行し、投資コストの回収も困難化してきている。こうした競争環境下における日本企業にとっては、新たなコンセプトに基づく、そして新たな異分野融合型の技術開発をベースに新製品を開発していく能力が要求されてきている。そのためには、多分野融合型の多様な認知アプローチをベースとした新たな「知識創造型の研究開発プロジェクト」と「多文化マネジメント・システム」が不可欠となる。今回の共同研究の目的はこれらの諸点の理論的解明にある。

３．研究の方法

日本の主要多国籍企業の本社と海外現地法人へのインタビュー調査、およびこれら企業が取得した米国特許と発表論文の解析を通して、研究開発担当者の国際化と国際的な研究開発ネットワークの進展度、および異分野領域との融合の程度を明らかにしていく。多文化の程度に関しては、国際的共同研究の程度からどのような国籍の研究者との共同研究なのかを分析している。そして異分野融合の程度に関しては、特許広報から発明分野の数、および論文から関連技術分野の数を特定化し、異分野融合の程度を検証している。最後に、分析対象企業の海外売上高と、研究開発の国際化の程度、および異分野融合の程度との関係性を検証していく。

４．研究成果

主要日本企業の分析を通して、新製品開発に優れた企業ほど、研究開発の国際化と他分野の領域との異分野融合型研究開発体制となってきていることがあきらかとなった。その際、研究開発の国際化は、企業所属の研究開発者の国籍の多様化と、海外他組織、特に海外の大学を始めとする研究機関との国際的共同研究のネットワーク化の二つの側面が同時に進展してきていることが確認された。そして、国際市場への投入を意図した新製品を開発しようとするほど、他分野・異分野融合型研究開発となってきていることから、新たな知識創造型のマネジメント・システム、換言すれば「知識創造型マネジメントシステム」は、多様な人材の能力を活用させていく多文化マネジメント・システムとならざるを得ないことが明らかとなった。しかしながら、欧米系多国籍企業との比較においては、研究開発の国際化の視点から見た場合には特に、日本企業の国際的展開度の低さが顕著となっており、新製品開発における組織的な「日本的多文化マネジメントシステム」の構築が喫緊の課題となっているといえる。
今回の主たる研究成果は、以下の発表論文、学会報告、著書にまとめられている。

研究成果においてとりわけ興味深かった点は、学会報告において、林が日本経営学会、Strategic Management Forum,異文化経営学会、および馬越が Pan Pacific Conferenceなどの日本内外の学会で発表した際に、いずれの学会においても参加者からは、日本企業のグローバル化にともない異文化マネジメントやダイバーシティ・マネジメントの重要性に対して、以前よりもはるかに高い関心を得られた点にあった。特に代表者は、日本経営学会において、IFSAM Forumや統一論題を発表した際にも、

さらにシンポジウムにおいてもこうした論点に議論が集中した。かかるテーマが経営学会において取り上げられたことは画期的なことであり、従来の単一的な文化による日本企業の経営が、今後は多文化による経営に移行する可能性があることを示していると思われた。今後は、内外の研究者との共同研究を深めると同時に、実証研究をさらに緻密化してさらに「知識創造型日本的多文化マネジメントシステム」の理論的構築を試みたい。

今後の分析上の課題：

プロジェクト・メンバーの多様な文化的背景による文化的多様性と、多様な技術分野を背景とする異分野間の多様性が、研究開発の国際化とともに重要性を増してきていることはある程度解明しえた。しかしながら、研究開発プロジェクト・チームあるいは新製品開発チームにおける「多文化マネジメント」と「異分野マネジメント」の内実の解明には不十分さを残してしまった。

特に、チーム・マネジャーのどのような「多文化マネジメント」と「異分野マネジメント」がメンバーの多様な認知アプローチを効果的に融合させて、新たな知識創造に至ったのかについては今後の大きな研究課題として残ったままとなった。とりわけ、多文化間・異分野間シナジー効果の創出による新たな知識創造を可能とする日本企業特有の「場のマネジメント」と「境界(boundary)のマネジメント」を基盤とする「知識創造型日本的多文化マネジメントシステム」に関しては次回以降の研究テーマとして残されている。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計９件）

(1) Hayashi,T.,"Knowledge Creation and Global Collaborative R&D Systems", co-authored with C.Iguchi, *International Journal of Global Business and Competitiveness*, 2009, 4(1), pp.1-14、査読あり

(2) Hayashi,,T. "Strategic Knowledge Creation and the Management of Diversities－Comparative Analysis of Kao Corp. and P&G-", co-authored with A.Nakayama, *International Journal of Strategic Management*, Vol.9, No.1, 2009, 1-17.査読あり

(3) 林　倬史「戦略的知識創造とダイバーシティ・マネジメント」，『三田商学研究』Vol.51,No.6、2009、25-51、査読なし

(4) 櫻井秀子「イラン革命とグローバリズム」,『アジ研　ワールドトレンド』No.169, 2009、13-15. 査読なし

(5) Magoshi, E. & Eunmi Chang ,Diversity management and the effects on employees' organizational commitment: Evidence from Japan and Korea", *Journal of World Business*, 44(1), 2009, 31-40. 査読あり

(6) 林　倬史「新製品開発プロセスにおける知識創造と異文化マネジメント」『立教ビジネスレビュー』創刊号、2008 年 6 月、16-32. 査読なし

(7) Magoshi,E.,"Diversity Management in Japanese and Korean Companies" in 24th Pan Pacific Conference 2007, 2007,Vol.60-9 P56―59, 査読あり

(8) 櫻井秀子「イスラームにおける喜捨と交換:混交経済の社会的合理性」,『地域文化研究』, 2007, Vol.10, 135-156,査読なし

(9) 林　倬史「欧米多国籍企業の研究開発グローバル戦略」『月刊グローバル経営』在外企業協会、』2007 年 9 月号, 4-7, 査読なし

〔学会発表〕（計 10 件）

(1) Hayashi,T. Strategic Knowledge Creation and the Management of Diversities; Comparative Analysis of Kao Corp and P&G, AIBE, Capsis Hotel, Thessaloniki, Greece, June 5-7, 2009.

(2) 林　倬史、「戦略的知識創造とダイバーシティ・マネジメント」日本経営学会全国大会, 九州産業大学、2009 年 9 月 2 日

(3) Hayashi,T., 'Strategic Knowledge Creation and the Management of Diversities', IFEAMA, State University of Management (Moscow, Rissia), Oct.1-2, 2008

(4) Magoshi, E.A Case Study of the Japanese Construction Industry and Its Transcultural Management, 25th Pan Pacific Conference 2008, Hotel Ramada Plaza, San Jose, Costa Rica, June 2, 2008

(5) 櫻井秀子「**イスラーム金融の基本構造:ビジネス倫理を中心として」、地域文化学会、中央大学、2008 年 11 月 8 日**.

(6) Hayashi,T., 'Internationalization of R&D Activities, and the Emergence of Global R&D Networks, Strategic Management', Forum ,IIT(Mumbai, India), May 10-12, 2007.

(7)　Hayashi,T.,’Critical Issues of Business Management Research in the 21st Century’,日本経営学会全国大会 IFSAMForum、追手門大学、2007年９月７日
(8)　林　倬史、「知識創造とダイバーシティ・マネジメント」異文化経営学会、明治大学、2007年３月 22日
(9) 馬越恵美子「異文化経営とダイバーシティ・マネジメント－日本の企業社会のあり方をめぐって－」日本経営学会全国大会、追手門大学、2007年９月７日
(10) 馬越恵美子「日本の異文化経営最前線：研究、教育、ビジネスにおける問題と展望」国際Ｐ２Ｍ学会関東部会 、日本工業大学、2007年２月

〔図書〕（計７件）
(1)　林　倬史「知識創造と文化的多様性のマネジメント」 『異文化経営の世界』（馬越恵美子・桑名義晴編著・異文化経営学会著、第４章）白桃房書房、2010年３月、65-93.
(2)　馬越恵美子「異文化経営とその社会的使命」『異文化経営の世界』(馬越恵美子・桑名義晴編著・異文化経営学会著,第１章）2010年３月, 1-20.
(3)　櫻井秀子「イスラームにおける関係重視型経営」『異文化経営の世界』(馬越恵美子・桑名義晴編著・異文化経営学会著,第 14章）2010年３月、269-286.
(4)　櫻井秀子『イスラーム金融:贈与と交換、その共存のシステムを解く』新評論、2008年、258頁
(5)　Hayashi,T., Internationalization of R&D Activities and the Emergence of Global R&D Networks, *in* A.Ghosh and G. Banerjee(eds), *Strategic Management For Firms in Developing Countries.* Allied Publishers, *2007,* 344-354.
(6) 林　倬史「東アジアのトランスナショナル・コミュニティと知識共創のメカニズム」『移動するアジア』(林・佐久間・郭編著、明石書店)2007, 18-47
(7) 林　倬史「デジタル資本主義時代の戦略的課題と競争優位」『ユビキタス時代の産業と企業』(井上・林・渡邊編著、税務経理協会、2007,81-105. ）

〔その他〕
ホームページ等
http://www.rikkyo.ne.jp/web/takabumi/profile.html

６．研究組織

(1)研究代表者
林　倬史　（HAYASHI　TAKABUMI）
立教大学・経営学部・教授
研究者番号：50156444

(2)研究分担者
馬越　恵美子（MAGOSHI　EMIKO）
桜美林大学・経済・経営学系・教授
研究者番号：10348085

櫻井　秀子（SAKURAI　HIDEKO）
中央大学・総合政策学部・教授
研究者番号：60203345

(3)連携研究者
五味　紀男（GOMI NORIO）
明治大学・経営学部・客員教授
研究者番号：30350309

高橋　俊一　（TAKAHASI　TOSHIKAZU）
立教大学・経済学部・助教
研究者番号：00547896
（H19-20：研究協力者）

荒井　将司（ARAI　MASASHI）
立教大学・経済学部・助教
研究者番号：70549691
（H19-20：研究協力者）

(4)研究協力者
Kirankumar Momaya
Indian Institute of Technology.IIT, New Delhi, Associate Professor

Serapio Manuel
University of Colorado at Denver, Associate Professor